

就任にあたって ~地球と科学の大きな変化 の中で



消防庁次長 小宮 大一郎

消防・救急課長、総務課長、審議官、国民保護・防災部長、危険物保安技術協会理事と続き、6年連続の消防勤務となりました。

この間、印象に残っていますのは、まず、糸魚川の火災です。地震以外の原因では酒田の大火以来の市街地における大規模火災であり、この火災を踏まえ、全国の消防本部において、市街地を対象とした警防計画を策定してもらうこととしました。

また、市街地全体が水に浸かった倉敷市の水害です。雨が止んだ後のテレビの映像と、「数百人の方々逃げ遅れて亡くなっているかもしれない」という恐怖心が、今でも鮮明に記憶に残っています。

また、房総半島を襲った台風では、上空のヘリから見た数え切れないほどのブルーシートに覆われた半島の海岸の景色が、脳裏に焼き付いています。東日本台風の時には、台風の予想進路の都道府県の代表消防本部の局長さん方に「躊躇なく緊急消防援助隊を要請して下さい。また、県内応援も積極的に行ってください」と、直接電話をしました。しかし、1名、5名、10名、30名・・・とあっという間に死者が増えていった時の無力感。今でも忘れることはできません。

この他、長野県と群馬県のヘリの墜落事故を受けて、2パイロット制を事実上義務付けました。

さて、地球温暖化による災害の多発化・激甚化とAI・IOTなどの科学技術の指数関数的な発展に、消防の世界も大きな影響を受けています。火事による死者は毎年減少していますが、自然災害は激甚化・多発化し救急搬送件数は毎年増加しています。そして、救急車の適正配置へのAIの活用、無人の消火ロボット、火災報知器から消防指令センターへの自動通報など、10年前では「出来たら良いね」だった技術が、今、現実のものとなっています。

最近の科学技術の発展のスピードに鑑みれば、これから先は、今までよりもっと速いスピードで世の中は変化していくでしょう。それに、消防の世界も追いついていかなければなりません。

そのためには、「ゆでガエル」にならずに、人的・物的資源の配分を変化させていかなければなりません。

そして、この大きな変化の中でも、消防の役割が、国民の生命・財産を守るという地方公共団体の仕事の中で最も重要なものであることは不変であり、無償の全国均一のパブリックサービスとして維持し続けなければなりません。

そして、住民への的確な避難指示と避難によって風水害の死者は0にできる、IOTとスプリンクラー等の技術によって火災による死者も0にできる、という気持ちを、最も大切なものとして持ち続けたいと思っています。

以上、個人的な思いを述べさせて頂きました。ご容赦下さい。全国の関係の皆様とともに努力してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。